

# Fate Control

## バイオグラフィー

Fate control“フェイトコントロール”-1959年経済社会学で作られた用語-特定の種類の人間の力関係を表す。我々は自身の運命を操り、他人が指揮する権力の行使から逃れられる事が出来るのか？

様々な音楽プロジェクトをこなしていくうち、オリビエとマリオ・ブルキ兄弟、クリスチアン・リップそしてマルクス・シュラッターは2010年にフェイトコントロールを結成させる。方向性はよりモダンで、よりハードなサウンドだ。

キーボードには2010年末からマヌエル・ヴンダーリッヒが健康上の都合で脱退したマリオ・ブルキに代わり担当。2011年、マット・チェリーニの発見によって理想的なフロントマンが加わり、さらにマーク・フリッグがセカンドギタリストに決まった事ですべてのシリンドーから爆射できる事になった。

バンドメンバーのエネルギーと情熱は2012年にリリースされたファーストシングル「ノックアウト」で明らかに感じる事ができる。フェイトコントロールのサウンドは、キャッチーなメロディーとハードなリズムで明確に構造化されている。

そしてフェイトコントロールはSoilwork(ソイルワーク)やIn Flames (イン・フレイムス)一方では、Avenged Sevenfold (アヴェンジド・セヴンフォールド)、Chimaira (キマイラ)、Slipnot (スリップノット)やFive Finger Death Punch (ファイブ・フィンガー・デス・パンチ)のようなトップアメリカングループのバンドからもインスピレーションを受けている。

「ヨーテボリ・メタル」の古典的メタルや「ニューウェーブ・オブ・アメリカンヘビーメタル」からの影響とメタルコア要素の入り交ざったサウンドはフェイトコントロールを独立したモダンメタルへと発展させていった。

2012年7月に行われたOpenQuerでの初ライブではFddlier's Green (フィドラーズ・グリーン)とSubway to Sally (サブウェイ トゥー サリー)のオープニング・アクトを努めライブパフォーマンスのクオリティーを大勢の観客の前で証明させたのである。その後フェイトコントロールはファーストアルバムの作成に取り掛かるべくスタジオに籠もるのであった。2013年にはギタリストのクリスチアン・リップが脱退。そのポジションには新しくロルフ・シュペックが付くことになる。

オンラインシングル「ノックアウト」(2012年)や「ユーシャルフォール」(2013年)に続き2014年2月、フェイトコントロールのファーストアルバム「ランダムサバイバル」がリリースされる。ここでスウェーデンのメタル界の巨匠ダニエル・ベルグシュトランドやリカード・スポロングが共に作成に参加してくれたのはフェイトコントロールにとって幸運であった。このデビュー・アルバムのミキシングとマスタリングは彼らが手がけたものだ。Soilwork (ソイルワーク)、Meshuggah (メシュガー)、In Flames (イン・フレイムス)も彼らの手によるものである。

「ランダムサバイバル」は、国際的にオンラインとCDの両方で購入可。

現在フェイトコントロールはライブギグを意欲的に探している。

[www.fatecontrol.com](http://www.fatecontrol.com)

### Contact:

Fate Control Management, Olivier Bürki, Terminus, CH-3700 Spiez

Tel. +41 (0)33 654 23 15, Email: [info@fatecontrol.com](mailto:info@fatecontrol.com)